

第4回三番瀬評価委員会の開催結果（概要）

- 1 開催日時 平成19年8月3日（金）午後5時30分から9時
- 2 場 所 浦安市民プラザWave101
- 3 出席者 委員9名
- 4 参加人数 19名
- 5 結果概要

（1）あいさつ

県総合企画部荘司理事からあいさつがあった。

（2）座長について

議事の前に、細川委員に継続して座長をお願いすることについて、事務局から県の考え方の説明があった。

（3）開催結果の確認委員

細川座長からの指名により、吉田委員、横山委員が会議開催結果の確認を行うこととなった。

（4）議 事

議題1 これまでの検討経緯及び三番瀬再生会議からの検討指示事項について

事務局から資料1-1、1-2、1-3により、第3回三番瀬評価委員会以後の経緯及び6月8日に開催された第19回三番瀬再生会議にて、大西会長から検討の指示があった事項についての説明があった。

また、再生計画事業のひとつである「生物多様性回復のための目標生物調査」の進め方については、8月1日の第20回再生会議において大西会長から評価委員会で検討するよう指示があり、細川座長から、その概要についての説明があった。

（主な意見）

- ・生物多様性回復のための目標生物調査については、再生会議の委員の有志で検討を進めることとし、評価委員会としてどのような支援をするか、また、どのように検討を進めていくのかを、本日議論してはどうか。

議題2 三番瀬自然環境調査について

事務局から資料2-1、2-2、2-3により、三番瀬自然環境調査の平成18年度結果概要、19年度事業概要及び20年度以降の事業概要について説明があり、これに基づく質疑応答及び意見交換が行われた。

（主な意見）

- ・今後は、調査設計の段階で集中して議論を行い、解析イメージを掴んでから調査に取り組んではどうか。
- ・流入河川の流量測定については、水位計を設置して、定期的に水流量曲線を作成するのが良いのではないか。
- ・今後、議論をしていく前提として、調査の年次計画とフローチャートなど、今後の調査の進め方を提示していただきたい。その上で、議論をすすめたほうが良いのではないか。

(会場からの意見)

- ・総合的、長期的視点から無駄のない調査設計を行うべき、等。

議題3 市川市塩浜護岸改修事業に係るモニタリング手法について

事務局から資料3により、市川市塩浜護岸改修事業に係るモニタリング手法について説明があり、これに基づく質疑応答及び意見交換が行われた。

(主な意見)

- ・水鳥の生息場に関しては、護岸周辺以外に沖合の範囲でも影響を受ける可能性があるため、それに留意して調査を進めていただきたい。
- ・景観については、江戸川大学の学生が塩浜護岸を研究テーマとしており、研究が進展したらその内容を報告する。
- ・アサリと底質の関係は、三番瀬におけるデータがあるので、整合性をチェックしていただきたい。

(会場からの意見)

- ・資料中、アサリの底質に対する嗜好のデータが古い可能性があるため、検討してもらいたい。
- ・資料によると海底地形の変化傾向があるようなので、専門家の検討をお願いしたい。
- ・過去のモニタリング結果を評価し、これを検証し、次の実施計画やモニタリング手法の改善に活かすのが評価委員会の機能ではないか。
- ・モニタリングの範囲を広げた場合の手法、範囲について検討いただきたい。

議題5 その他

議題4に入る前に、「その他の議題」として、議題1で説明された「生物多様性回復のための目標生物調査」の検討に関して、吉田委員及び清野委員から、過去の三番瀬円卓会議「再生イメージワーキング」での検討結果等について説明があった。

議題4 今後の進め方について

今後の進め方について、細川座長から資料4 - 1、4 - 2により説明があり、検討日程については了承された。

【座長のまとめ】

効率的な検討を行うため、検討事項に応じ、「塩浜護岸モニタリング関係」及び「自然環境調査関係」の2つの小委員会を設置する。

「生物多様性回復のための目標生物調査」の検討については、小委員会は設置せず、委員有志で検討を行う。

塩浜護岸モニタリング関係小委員会のとりまとめ責任者は細川委員、自然環境調査関係小委員会のとりまとめ責任者は望月委員、その補佐役を蓮尾委員にお願いする。

以上